

## 「アイヌタイムズ」に関するチラシの中のアイヌ語文字の解説

アイヌ語の小さな「カタカナ表記」

チラシの中にある「アカ<sup>a</sup>ラ /a=kar<sup>a</sup>/, エア<sup>a</sup>ラキンネ /ear<sup>a</sup>kinne/, ヌカ<sup>a</sup>ラ /nukar<sup>a</sup>/, ウエビ<sup>a</sup>リカレ /uepir<sup>a</sup>kare/」の小さい「カタカナ」“ラ”と“リ”は、音節末の子音 (IPA で[r]) であり、前の母音の影響をうけて、弱い“ラ”、“リ”のように聞こえます。

文字コードの国際規格「ユニコード」の中には、日本語では使わずアイヌ語だけで使う小さな「カタカナ」があります：

ク /-k/, シ /-s/, ツ /-t/

ハ /-(a)h/, ヒ /-(i)h/, フ /-(u)h/, ヘ /-(e)h/, ホ /-(o)h/

プ /-p/, ム /-m/

ラ /-(a)r<sup>a</sup>/, リ /-(i)r<sup>i</sup>/, ル /-(u)r<sup>u</sup>/, レ /-(e)r<sup>e</sup>/, ロ /-(o)r<sup>o</sup>/

これらの小さいカタカナも音節末の子音です。日本語にはない音韻です。

なお、「<https://www.amazon.co.jp>」上で、「アイヌタイムズ」をサーチすれば、その「Kindle」の電子書籍を購入することもできます。

---

次の「アイヌ民族」は、下のウェブサイトからの引用です。(北海道庁のサイト)

[http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/hokkaido\\_akarenga\\_kr.htm](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/hokkaido_akarenga_kr.htm)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/grp/02/Koreaakarenga7.pdf>

## アイヌ民族

アイヌとは、日本に住む民族の一つで、日本の北海道、東北地方、ロシアのサハリン、千島列島などに定着して住んでいた少数民族です。

明治時代に入ると、日本政府は、それまで「蝦夷地」と呼んだところを、今の「北海道」という名前に変え、植民地政策を開始しました。この時からたくさんの大和民族（日本民族）が移住して住み始めました。それからアイヌ民族は少数民族になりました。アイヌ民族が和人より先に住んでいた意味で「先住民族」という言葉を使うこともあります。

現在アイヌの人口は2万3000人という統計調査の結果が出ていますが、実際の人口は数倍から数十倍に達すると推定されています。また、彼らは、現在、北海道だけでなく、本州、四国、九州など日本各地に住んでいるようです。

アイヌ語は、アイヌ民族の固有言語で日本語と似たような語順ですが、いくつかの違いがあります。

その中で、日本語と違う最も大きな特徴は、動詞や名詞に「私」とか「あなた」など（について）の人称（接辞）を付ける規則があるという点です。

アイヌ語は、明治時代以降、学校などの教育現場での使用が禁止され、日本語の使用を余儀なくされました。今現在は伝統的な儀式や祭事などの場合を除いては、日常生活の中でアイヌ語を使用することはほとんどなくなりました。しかし、アイヌ民族はアイヌ語を守って伝承していくためにアイヌ語教室を開くなど、絶え間ない努力をしています。

北海道 80%以上の地名がアイヌ語に由来するが、これは昔のアイヌ民族の考え方や生活を知る手段とされています。また、アイヌ語地名は「次の世代に残したい遺産」で2001年に北海道遺産に指定されました。